

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270700303		
法人名	株式会社 和芳		
事業所名	グループホーム双葉		
所在地	千葉県銚子市松本町2-810-10		
自己評価作成日	平成22年1月28日	評価結果市町村受理日	平成22年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホーム内バリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保されています。空調面において、床暖房やエアコン等を設置しており、安全で暮らしやすい環境作りに配慮しております。 協力医療機関との連携が密に図られており、随時対応できるよう体制を築いている。職員全員で、家庭的で暖かい施設作りに取り組んでいます。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成22年	2月	12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム双葉は、全面バリアフリーとなっており、リビング・廊下等には十分な介助スペースが確保されていると共に、床暖房やエアコンが設置されており、安全で快適な環境作りがなされている。協力医療機関との連携が密に図られており、日頃の健康管理や緊急時の対応等、いつでも対応できるよう協力体制を構築している。職員は、明るく笑顔の絶えない家庭的で暖かい施設作りに取り組んでいる。また、職員の育成に積極的に取り組んでおり、資格取得の為に支援・研修参加の費用負担等、職員の質の向上に努めている。併設の小規模多機能ホームとは、合同行事の開催や日頃の行き来等、交流が行われており、入居者の生活の活性化に繋げている。</p>
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な共同生活の場において、利用者の皆様の主体性を大切に、心豊かな生活が送れるよう、地域の交流を大切に暮らすことができるよう独自の支援を理念としている。毎朝礼時、理念の唱和を実施し、運営方針や目標を話し合い理念の実施に取り組んでいる。	入居者の主体性の尊重・地域との交流・心豊かで家庭的な生活の支援を主眼とした独自の理念を掲げている。事業所内に理念を掲示すると共に、毎朝理念の唱和を実施しており、職員全員が理念を共有して実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児、住民の方々の散歩時、庭先での挨拶や会話をしにしみ、なじみの関係を築いている。朝夕、犬の散歩をしながら立ち寄ってくれ、日常のコミュニケーションも取れている。また、隔月ニュースを発行し、地域に回覧したり、各種ボランティアの受け入れやハーモニカ等の演奏など地域の方々の協力を受けながら交流を深めている。	地域の方が気軽に立ち寄ってくれる馴染みの関係が築かれており、日常的に交流を持っている。隔月発行の双葉ニュースを地域に配布しており、施設の理解促進に努めている。また、地域ボランティア・中学生の職場体験・学校教員課の訪問等を積極的に受け入れ、地域貢献にも努めている。	施設計画として、近隣の保育園との交流を掲げている。今後は、その実現に向け取り組んで頂く事を期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	銚子市包括支援センターへの協力として、施設入居者の対応マニュアル作成への参加。また、ボランティアや中学生の体験学習授業の受け入れを行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催。会議では、利用者状況の説明、行事やボランティア受け入れ等の報告及び意見交換や勉強会等を行っている。利用者家族代表の意見要望を聞かせていただく場ともしている。また、外部評価結果について書面により報告をし、問題点があれば協議する場ともしている。	市職員・民生委員・町内会長・家族等を構成員とし、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では施設の活動報告を行い、施設の理解促進に努めると共に、意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	銚子市包括支援センターが開催する地域ケア会議や研修に参加を含め常に連携を図っている。また、介護保険に関することや虐待等の諸問題に対し、市と共同して協議している。施設運営に関する相談等を随時行い早期解決を図っている。	日頃から業務における相談や報告等を行っており、市との連携を図っていると共に、市から緊急受け入れの要請を受ける等、協力体制を構築している。また、市主催の地域ケア会議に参加しており、市との情報交換を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県で開催する研修等に参加し、身体拘束のないよう、すべての職員がお互いの理解を深めケアに活かせるよう取り組んでいる。	身体拘束排除における施設方針を掲げると共に、研修に参加しており、身体拘束排除に向けて取り組んでいる。玄関においては、日中は施錠せず、センサーチャイムにて安全確保をしており、入居者の自由な生活に配慮している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設部会の推進会への参加及び県の開催する研修会等で全職員が学ぶ機会を持ち、事業所内及び自宅での高齢者虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	公的機関開催の講習会参加や県の開催する研修会等に参加し、その必要性、活用法を学んでいる。成年後見人を介しての利用、支援実績もある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時は、利用者や家族にわかりやすいように各専門スタッフが共同で説明し、不安、問題点を尋ね、納得の得られるまで丁寧な説明を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、随時家族からの要望、苦情を聞き記録し、運営に反映させている。また、玄関に意見箱を設け、利用者の意見、不満、苦情等を個別に話し合う機会を設けたり、意見要望を支援に反映させるようにしている。他事業所の介護支援専門員等への相談を促すなど運営に反映させている。	窓口や意見箱を設置していると共に、家族の面会時に直接意見・要望等を確認している。挙がった意見・要望等に対しては、会議にて周知・検討しており、適切な対応を図っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回運営者を交えての会議を開催し、意見や提案を直接話す機会を設け運営に反映させている。	毎朝ミーティングを行っており、職員の意見・提案等を確認し、運営に反映させている。管理者は、新人職員を中心に個別に話をする機会を設け、職員の意見や思いの把握に努めている。職員が意見を言いやすい環境作りに努めており、働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい職場環境の整備に努めている。給与水準については、UP改定は厳しいものがあるができる限りの努力はしている。今年度、介護職員処遇改善助成金を申請し、介護職員の収入増を図った。労働時間についても職員個々の勤務状況を把握し改定した。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域で開催する研修及び、毎月1回実施する院内研修に職員全員で参加し、介護の質の向上に努めている。必ず研修報告を職員間で行い、情報の共有に努めている。資格取得支援もあり、通信教育・各種講座への受講支援も充実させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域部会やネットワークを通じて、意見交換や勉強会に参加。困難事例の問題等を共有しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談時から利用にいたるまで、本人の困っている事や不安などに穏やかに傾聴し、本人の要望に沿えるよう、話しやすい環境づくりを心がけている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>来訪時や電話相談等にも、全職員が時間をかけて傾聴し、困難事項、今一番求めていることなどを受けとめられるよう日々努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に提供票等を参考にしながら、本人家族が何を必要としているかを見極め、必要に応じて他のサービス利用をアドバイスできるようにしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>掃除、食事の後片付けや乾いた洗濯物をたたんだり、一緒に作業しながら日常生活の中でのこまかい相手への思いやりや、人生経験豊かな各自の思いに触れ、時に学び、時に支えあう関係を築いている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>支援困難時、家族の方にホームに出向いていただき、介護について協力いただいている。時に第3者を交えた家族の会を開催している。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人、友人の訪問も気軽にあり、一緒にお茶を飲みながら談話していかれる。その時々を有意義に過ごせるよう、なじみの関係が切れないよう配慮している。</p>	<p>家族と協力しながら、入居者の馴染みの場所や店等への外出を支援していると共に、入居者の知人・友人が気軽に来訪できるよう施設を開放しており、馴染みの関係が途切れないよう配慮している。また、家族との外出・外泊は自由となっており、家族間の関係継続にも配慮している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	世話役の得意な方にうまく力を発揮していただき、お互い気分を上げてくれる場面を作ったり、入居者同士の関係や力のバランスを生かすようにしてお互い支えあえるよう配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時もお見舞いがてら訪問したり、家族の相談等に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用して本人の意向を的確に把握できるよう、全職員で情報を共有して検討している。日々の体調や気持ちの変化に合わせた意向の汲み取りができるよう家族とも連携しながら対応を検討している。	契約時に、本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を聴取し、記録している。また、必要に応じて、他の事業所から情報を収集し、詳細な情報の把握に努めている。入居後は、日頃の会話や観察から本人・家族の意向を確認し、記録しており、常に新しい情報を職員全員が共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から今までの経験や生活歴を把握し、本人の馴染の暮らし方とはどのようなことなのか理解し、また、これまでのサービス利用の経過等を把握した上で、その人らしい暮らしや、尊厳が保てるよう支えていけるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、現状で保有している心身の能力を客観的に把握し、本人が暮らしやすいように支援できるよう、常に職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人・家族等の思いや望みを把握し、可能な限り取り入れるようにしている。介護計画は職員全員で意見交換し、本人本位に立って、計画作成担当者がまとめ作成している。	本人・家族の意向を踏まえた上で、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。必要に応じて、主治医等に意見を確認しており、本人の現状に即した介護計画の作成に努めている。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行っており、必要に応じて見直しを行っている。また、随時、会議やミーティングにて話し合いを行い、職員全員が情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づきケアを実践し、結果や気づきや工夫を個別記録に記入している。それを全職員が目を通し、日々新しい情報を共有しながら支援に活かし、介護に取り組んでいる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の要望に対し、各分野からの専門スタッフのアドバイスを受け柔軟な支援に努めている。隣接している小規模多機能ホーム双葉利用者との交流や共同支援により、生き生きとした生活が送れるよう取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じてボランティア、民生委員、警察、消防、教育機関等各分野からの協力が得られるよう働きかけ、利用者の生活の安定を支援できるようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医への受診には、職員と家族の協力のもと、適切な医療を受けられるよう支援している。受診事実を記録し、家族へ随時報告するようにしている。必要に応じて管理者と協同してかかりつけ医への相談を行うなど、適時に医療とスムーズに連携できるように支援している。	協力病院以外にも、希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、希望に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。必要に応じて往診が実施可能となっており、柔軟な医療支援が行われている。看護師職員や訪問看護ステーションとの連携が図られており、適切な健康管理が行われている。また、訪問看護ステーションや協力病院と連携し、緊急時の協力体制が構築されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション双葉との協働により、利用者の変化を把握し、看護、介護に活かしている。また、地域の看護職員との連携もとれていて気軽に相談できるようになっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携体制は整っている。医療機関と今後の変化に備えるための情報交換を欠かさないようにしている。また、安心して治療に専念できるような態勢造りをし、入退院に支障の無いようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けて家族、医師、職員、看護師で話し合い、ケア方針を共有している。日常生活での変化や体調に注意し、機能低下に対応した連携体制が取れるようにしている。また、終末期に関して施設の方針を説明、同意書を受領するとともに、介護計画書を作成、適切な支援ができるようにしている。</p>	<p>終末期・重度化における施設方針等を契約時に説明をしている。緊急時マニュアル・急変時マニュアル等の書類を整備すると共に、研修を実施し、職員に教育している。終末期においては、看取り計画を作成し、医師・看護師・家族と随時話し合いを行いながら、本人・家族の意向に沿った支援が行えるよう体制を整えている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変患者対応、事故発生時対応等のマニュアルを作成済み。日ごろから高齢者の身体的特徴の把握・事故対応等の職員研修を実施。また、応急手当、初期対応の訓練を定期的実施している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策マニュアルを作成。避難経路図を掲示し、いざというときにあわてることの無いよう周知徹底している。また、災害に備え消防署や近隣の協力を得ながら消防避難訓練を年2回実施している。特に、夜間人手不足時の対応に近隣の協力が得られるよう運営推進会議や双葉ニュース回覧を活用している。</p>	<p>火災報知器・通報器・消火器等が設置されていると共に、避難経路図やマニュアル等が整備されている。また、消防立会いのもと、年2回、消防避難訓練を実施している。地域との関係を深めながら災害時・緊急時における協力の呼びかけを行っており、地域との協力体制の構築を進めている。</p>	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの気持ちを大切に、利用者の誇りを傷つけないよう、節度ある言葉遣いを心がけ対応している。ときには非現実的な言動や誇大な言動であっても受けとめ、静かに傾聴し、寄り添う姿勢で対応することを心がけている。また、利用者のプライバシーを尊重し、無断で侵害することの無いよう周知している。</p>	<p>接遇・プライバシーマニュアルを作成すると共に、研修を実施し、入居者への対応・言葉使いの指導を徹底している。職員は入居者と目線を合わせ、その人にあった対応・言葉使いを心がけ、入居者の尊厳に配慮している。</p>	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>介護者が主導することなく、本人が無理なく自然に思いを表現できるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を良く聞き、会話を多くし、コミュニケーションを取りながら一日の大切な時間を自由楽しく過ごせるよう、また、本人にとって何が優先することなのかを考え、しかも押し付けでないような支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師が来訪しヘアカットを行う。また、好みの衣服が着用できるように、家族と相談しながら希望に添えるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日の生活の中で食事は大切な時間であるので、同じテーブルで会話をしながら楽しく食事が取れるよう支援している。また、食後はトレー拭きを得意とする方、テーブル拭きを得意とする方等、本人の力量にあわせ協働で後片付けを行っている。	入居者の希望や能力に応じて、準備から片付けまで共同で行っている。法人の管理栄養士が入居者の希望・嗜好・栄養バランスに配慮した献立を作成している。また、季節行事に合わせた特別食の提供や手作りおやつの実施等、食の楽しみを広げている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他事業所の栄養士の支援もあり、バランスの取れた献立を考え、また、介護者は利用者の好みや能力に応じて食べやすいように工夫している。食事や水分の摂取量を把握し、摂取量が少ない場合には間食等で補うなど、必要な栄養補給、水分補給ができるよう配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、義歯の洗浄等、口腔内の清潔に注意をはらい、誤嚥性肺炎の予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>職員が一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かし気持ちよく排泄できるよう誘導介助を行う。失禁の対応には、不安や羞恥心への配慮をしプライバシーを守りながら支援している。</p>	<p>排泄チェックリストを活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、適切な声掛け・誘導を行い、排泄の自立にむけた支援を行っている。オムツやパッドの使用をなるべく少なくできるように個々の排泄パターン・誘導方法を職員全員が共有している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>栄養士によるバランスの取れた食事、こまめな水分補給、毎日牛乳を飲む習慣や、体操や散歩、体を動かす働きかけをしながら便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>介護浴槽を導入、浴室を改造したことにより、以前より一人ひとりがゆったり気持ちよく入浴ができ、楽しい支援につながっている。入浴は本人の希望や状況に合わせて無理なく柔軟な対応を心がけている。入浴を拒否する利用者については、声掛けなど工夫して入浴する気分になるよう支援している。</p>	<p>入浴は毎日実施されており、利用者の希望や状況に応じて、柔軟な対応がなされている。リフト浴槽が設置されており、入居者の身体状況に応じた入浴支援が可能となっている。また、必要に応じてシャワー浴・清拭・足浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。入浴拒否対しては、声掛けやタイミングの工夫により、無理強いない入浴支援に努めている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>ホールリビングにソファを設置し、季節に合わせてゆったりと休息、安眠ができるように支援している。また、適時に利用者の不安に耳を傾け、安心して眠れるよう支援している。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>高齢者は、複数服薬することが多いため、必ず処方箋に目を通し、服薬の目的、副作用、用法、用量について内容を把握し服薬支援に努めている。また、服用後に変化はないかどうかの確認を怠らないように気を配っている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活を尊重。その中で食事の手伝い、洗濯物たたみなど個々のできる範囲の中で楽しみながらできるように支援している。また、季節の行事や花見など計画して季節の変化を楽しんでいただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日は体調を考慮しながらなるべく散歩に同行している。希望があれば、家族と協力しながら買い物等の外出ができるよう支援している。また、お花見等、季節に応じた戸外での楽しみを支援している。</p>	<p>入居者の希望や体調に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援を行っている。また、花見・地域の催し物に外出しており、季節に応じた楽しみも支援している。また、近隣の結婚式場への見物や併設のグループホームへの訪問を実施しており、気軽に外出する機会を設けている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の力量に応じ、また家族に相談しながら支援している。利用者の希望に応じて、買い物に同行、本人が支払いできるよう支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>施設内にピンク電話を設置し、利用者は家族等に電話で話しをしている。ポストも設置してあるので代理投函もできる。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全面バリアフリーで玄関・廊下・トイレ等ゆったりとした設計である。トイレは職員が頻繁に見回り、定期的に除菌、消毒、清掃を実施している。ホールは床暖房で、採光もよく明るく上部窓の開閉により通気性を保っている。キッチンからお互いの顔が見えるし、ソファも配置して、ゆったりした環境でくつろげるよう工夫している。</p>	<p>全面バリアフリーとなっており、玄関・廊下・トイレ等には、十分な介助スペースが確保されていると共に、床暖房が設置されており、安全で快適な生活環境作りがなされている。また、施設内は日当たりが良く、天窓が設置されており、明るく開放的な造りとなっている。リビングには、ソファやテーブルが設置されており、入居者が思い思いにくつろぐ事が可能となっている。中庭には菜園があり、利用者と共同で作物を植え、季節を楽しむ事が可能となっている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	構造的に少し手狭だが、共同空間の中でテーブル位置を変えたり、大きなソファを置いてみたりしている。その中で、気のあった同士が思い思いに話し込んでいる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望により、馴染みのある家具や身の回り品、衣服の持込で従前の生活の継続ができるようにしている。各自の好みにあわせ、フローリングに畳を敷き、和室感覚にしたりして工夫して過ごせる配慮をしている。また、全居室にエアコンを設置、過ごしやすい空調管理を心がけている。	入居者の希望により自由に馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が送れるよう配慮されている。また、希望により畳を敷く事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りが行われている。全居室にエアコンが設置され、職員によって快適な空調管理がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとし、手すりの設置も行き渡り、夜間はフットライトがあり、トイレへの誘導も安全確保に配慮している。できるだけ自立した生活が送れるよう改善工夫している。		